

「第20回TQM活動発表セミナー」が開催されました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2025年7月12日(土)、「第20回TQM活動発表セミナー」を実施しました。今年も健育会本部と各地の病院・施設によるWEB会議形式での開催です。

健育会グループで毎年開催している「TQM活動発表セミナー」が実施されました。日々の業務を継続的に改善していくために行われているTQM（トータルクオリティマネジメント）活動は、今年で第20回目を迎えました。昨年同様、各病院・施設から発表チームと、健育会本部から座長や幹部職員がWEB会議形式で参加しました。



今回のTQM活動発表セミナーは、各病院・施設よりグループ内地区予選を勝ち抜いた19題（前半9題、後半10題）が発表されました。

前半の部においては、熱川温泉病院 石川桂子看護部長が座長を務め、9題の改善事例が発表されました。



1

**介護老人保健施設しおんにおける
誤嚥・窒息事故防止の意識向上**

しおん

鈴木 修一(看護師)

チーム名:ごえん むえん



2

チャーリーを救え!

ケアセンターけやき

斎藤 優(介護士)

チーム名:けやき安全対策委員会



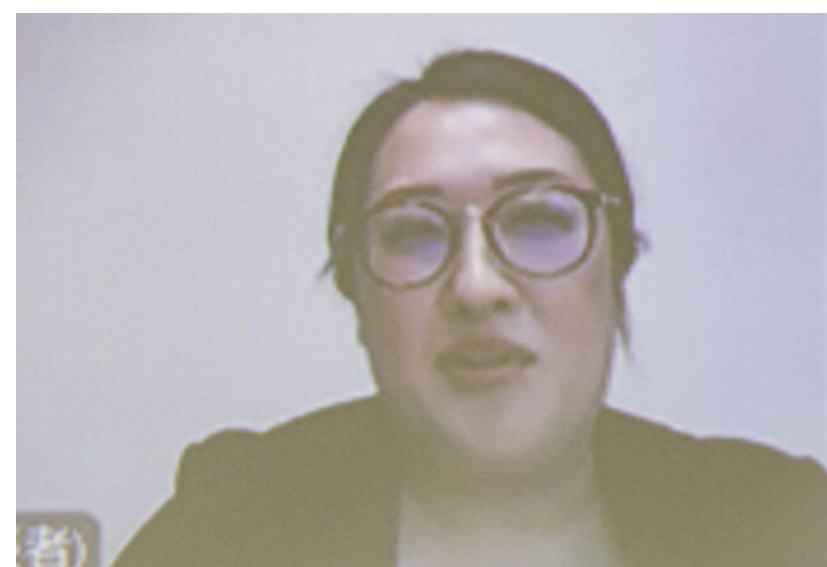
3

排泄に起因する転倒転落の改善

いわき湯本病院

鈴木 智美(看護師)

チーム名:転倒を防ぎ隊



4

インシデント0の分析から業務改善への取り組み

ひまわり在宅サポートグループ中央介護支援センター

安住 亨(ケアマネジャー)

チーム名:CK7



5

人材育成 BLS実践研修

ねりま健育会病院

森本 恵美(看護師)

チーム名:BLS TEAM



6

**各職種の専門性を活かした在宅復帰支援をめざして
～LSねりまとしてのチームアプローチの振り返りと体制見直し～**

ライフサポートねりま

久保 麻美(介護福祉士)

チーム名:サポートし隊



7

**ご家族への報告書における品質向上の取り組み
～より伝わる・伝える報告を目指して～**

ライフケアガーデン熱川

石居 孝幸(営繕)

チーム名:with チャッピー



8

削減の極み2
ライフサポートひなた
笹谷 陸人(理学療法士)
チーム名:ひなた削減部隊



9

更なる経費削減を求めて
茅ヶ崎セントラルクリニック
秋山 美文(事務)
チーム名:～それCENTRALにやらせて下さい～



前半の発表後、石川桂子看護部長より、各演題に対する講評が行われました。



- 1 演題目-誤嚥・窒息事故という命に関わる課題に対し、事故件数を減らすだけでなく、職員の意識向上という本質に焦点を当てた着眼点が素晴らしいです。多角的な対策が職員の具体的な行動に繋がり、報告しやすい環境作りや情報共有の仕組みが浸透したことで、目標達成という素晴らしい結果を迎えたように感じました。
- 2演題目-親しみやすい演題名が多く、職員の興味を引き、活動参加に繋がったように思います。ハイムリック法に関する知識だけでなく、実践への心理的・物理的な障壁に真正面から向き合った課題設定は、現場で真に役立つ活動に繋がったと確信しました。個々の安全意識向上は、数値以上の大きな成果をもたらしていました。
- 3演題目-転倒転落の中でも排泄に焦点を当てた具体的なテーマ設定が秀逸で、解決策が明確でした。月平均3.3件の転倒転落を0件にした成果は素晴らしく、現場の知恵と工夫、そして実行力に感銘を受けました。看護師だけでなくリハビリスタッフやリスク管理部門を巻き込んだチーム医療の形は理想的であり、活動が組織全体の知恵として定着しようとしている点が真のTQM活動であると感じました。
- 4 演題目-難しい目標を掲げ、それを確実に達成したことが素晴らしいと感じました。日常業務に潜む小さなリスクを安全活動の範囲として捉えることは、医療・介護現場で非常に重要です。単なる作業工程の見直しに留まらず、職員の心身の状況にまで目を向けた声かけサポートはTQMの本質を捉えており、持続可能な改善に結びついています。この活動がチームの財産として、組織全体の安全文化として定着していくことを期待します。

5演題目-現場スタッフの切実な声から始まった点が特に素晴らしいです。知識はあっても自信が持てないという共通の課題に真正面から向き合い、形式的ではない真に求められる研修を実施できたことが評価できます。研修実施率100%達成は、綿密な計画と参加意欲を高める工夫による偉業です。スキル習得だけでなく心の不安まで払拭し、実際の対応で応用できたことは、患者さんの命を守る確かな力となります。看護部門に留まらず、他職種の関心を高めた波及効果も、TQMの理想的な姿を体現していました。

6演題目-超強化型老健の役割を果たすため、職員が抱えていた在宅復帰支援への不安という課題に向き合った点が素晴らしいです。単なる業務改善ではなく、個々の気持ちに寄り添った温かい取り組みであり、わずか4ヶ月で「何から取り組みれば良いかわからないスタッフ」を0名にしたのはチームの情熱の賜物です。専門性・役割に関する勉強会、職種別マニュアル作成、情報共有の「三位一体の対策」が結果に結びつきました。特に多職種の情報共有システムは、今後の業務効率化と質向上に大きく貢献するでしょう。

7演題目-「ご家族への報告書」というテーマ設定に感銘を受けました。ご入居者とそのご家族との信頼関係構築とは、医療介護従事者にとって最も大切な目標に直結する重要なテーマです。部署の垣根を越えて共通目標に取り組むチーム活動はTQMの理想的な姿でした。ChatGPTのような最新テクノロジーを日々の業務改善に積極的に取り入れた行動力は素晴らしく、この取り組みはご入居者やご家族の幸せ、そして新技術活用 of の大切さを示していました。

8演題目-光熱費や物価高騰といった身近な課題を「筋肉質な経営を目指す」というより大きな目標に掲げた点が素晴らしく、現場の皆さんが節約を義務ではなく組織貢献として主体的に取り組んでいることが伝わりました。設備投資を伴う改革から日々の業務の工夫まで、ハードとソフト両面から多岐にわたる改革を目指していたように感じます。特にご入居者のADLに合わせた入浴形態の検討は、コスト削減だけでなくご利用者の尊厳を守る温かい視点を感じさせます。目標を大幅に達成したことは、日々の地道な努力とチームの行動力の賜物だと感じました。

9演題目-経営の喫緊の課題に正面から向き合い、具体的かつ達成可能な目標設定がされていました。目標達成後も更なる削減を目指し、新たなTQMチームを発足して活動強化をした向上心と継続的な改善姿勢は、TQM活動の本質そのものです。対策は現場の実情を理解した緻密な分析に基づいて考案されており、単一的視点に留まらない多角的なアプローチが大きな成果に繋がったように思われます。送迎費用の大幅削減は努力の証であり、経営だけでなくサービスの質の向上にも貢献する素晴らしい成果だと思いました。

後半の部においては、ねりま健育会病院の二瓶太志リハビリテーション部長が座長を務め、10題の改善事例が発表されました。



10

入院医療費における未収金額減少の取り組み

熱川温泉病院

芳賀 聖也(医事)

チーム名:未収金減少チーム



11

院内保育園の収支を改善したい

湘南慶育病院

小山 康子(事務)

チーム名:ぽかぽかクオリ隊



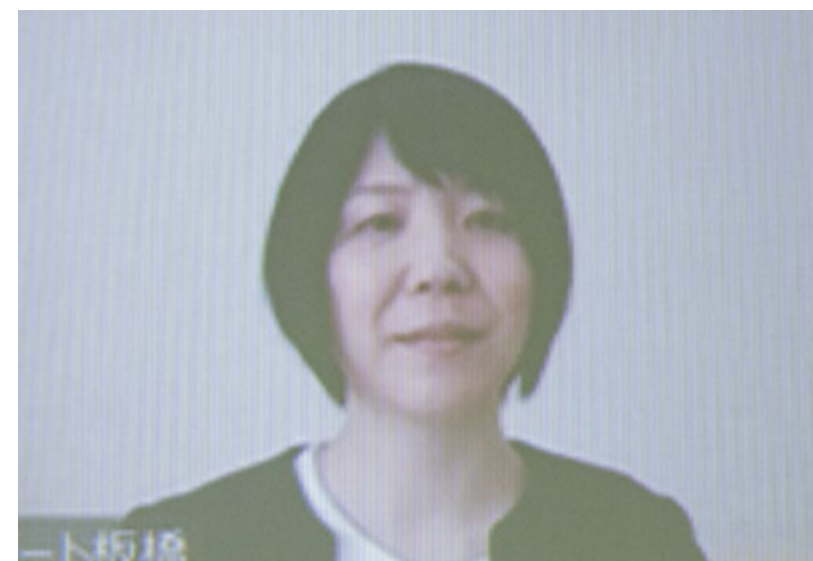
12

舟渡おとしより相談センターにおける書類仕分けの作業時間短縮

ケアポート板橋 舟渡おとしより相談センター

草野 多恵(保健師)

チーム名:必殺!仕分け人!!



13

コスト削減の取組み ～2024年度の記録～

竹川病院

宮内 泉(人事・総務)

チーム名:コストカッター



14

緊急入院における入院オリエンテーション時間の削減

石巻健育会病院

佐々木 千熙(社会福祉士)

チーム名:サクサクズ



15

もっと楽しめる老健へ～余暇活動の回数増加～

喬成会介護事業部 オアシス21

霜田 洋平(介護福祉士)

チーム名:老健の役割って何だろう?パート8



16	しおさい長期ご利用者における水分摂取量の増加 ～活力ある生活を送る為のプロジェクト～ しおさい 荒木 詩音(看護師) チーム名:水分促進隊	
17	「生活ケアにおける皮膚剥離撲滅大作戦」 ～安全で快適な生活を支えるために～ ライフケアガーデン湘南 須藤 友之(介護福祉士) チーム名:「サステナブルスキンケア」	
18	車いすの運用管理の適正化 花川病院 伴 幸恵(事務) チーム名:HWF(Hanakawa Wheelchair Fighters)	
19	病院SNSにおける定期的な投稿数の確保 ～はじまりの章～ 西伊豆健育会病院 森井 真実(健診事務) チーム名:Heart Line	

後半の発表後、二瓶太志リハビリテーション部長より、各演題に対する講評が行われました。



10演題目-未収金の高さには地域の特性が表れているように感じました。業務フローを一本化したことで関わる職員が増えたにもかかわらず、トラブルなく取り組めたのは、「親身な対応」ができていたからだと思います。連帯保証人の代行サービスについては、今後の成果に期待しています。

11演題目-院内保育園を撤退させず、職員の福利厚生のために存続させようとする取り組み姿勢に感銘を受けました。目標を上回る結果が出ていることは非常に素晴らしいです。職員の満足度向上のため、保育園の空き情報共有にiPhoneを活用するなど、業務効率化だけでなく多角的なアプローチを考えている点は素晴らしいと思います。収支のさらなる改善も期待できました。

12演題目-作業時間の自己測定に取り組んだ点は、TQM活動において業務効率化と質向上に有効な手段であり、その取り組みが結果に結びついたのだと感じました。自己測定を通じて作業時間やタスク配分を可視化し、無駄を特定して組織のパフォーマンス向上に貢献することは重要な活動です。中間評価による更なる効果創出も素晴らしいと感じました。今後進むDX化やペーパーレス化にも引き続き力を入れてほしいです。

13演題目-コスト削減に対する「根性」を感じ、大変感銘を受けました。コスト削減と品質低下防止の両立は重要なポイントです。業者選定において廃棄業者にまで関わったり、職員の得意分野を活かした取り組みは、TQM活動として非常に価値の高い取り組みです。他部門との連携も良く、さらなる成果を期待しています。

14演題目-入院オリエンテーション時間を大きく削減できた非常に良い取り組みでした。オリエンテーション動画の作成は、他の施設の参考にもなるでしょう。うまくいかないケースには従来のしおりで説明するなど、柔軟に対応している点や、家族の満足度や理解度をアンケートで確認していた点も評価できました。

15演題目-コロナ禍で一時期減少した余暇活動の実施回数を増やす取り組みは、目標達成はできたかと思います。一方で、ご利用者のメリットや影響が見えづらいと感じました。一方で他職種を巻き込んだ取り組みは非常に参考になりました。余暇活動の増加が良い影響を与えていると思われるため、今後はADLや認知度の変化をデータ化していくと良いでしょう。

16演題目-水分摂取という重要かつ難しい課題に挑戦する姿勢が良いと感じました。基礎疾患を持つご利用者への配慮も、医師と確認しながら進めている点や、スライドの分かりやすさも評価できました。水分補給を望まない方の周囲に、よく飲む方を配置して水分摂取を促すアプローチも素晴らしいと思います。わずか3例の取り組みでしたが波及効果もあったため、今後は施設全体での成果と変化に対する取り組みに期待しています。

17演題目-高齢者に合わせた適切な介助方法の知識共有に、動画やiPhoneを活用して表皮剥離の発生を効率的に抑制できていると感じました。セラピストとの協力による他職種との連携も評価できました。職員個々の技量が異なるため、今後は定期的な技量チェックが有効になってくると感じます。

18演題目-長年未着手だった問題に対し、積極的に取り組む姿勢が素晴らしいと感じます。その決断力と取り組みにより、動線確保などが業務効率化に繋がったと思います。適正台数設定において他職種を巻き込んだ点も良く、目の前の課題を共有し認識し合っていた点が評価できました。

19演題目-ユーモアがあり、非常に聞きやすい発表でした。初めての「課題達成型」の取り組みや、AIを活用した目標設定も参考になりました。SNS活用は患者さんの来院率の向上や職員リクルートにも効果が期待できます。TQM活動を「楽しみながら取り組む」ことを重視し、活動が自然と職員に根付いて循環していく姿はOur Team経営そのものであり、チームの努力を感じました。

前半後半の全ての発表が終わった後に審査が行われ、審査委員長を務めた長谷川友紀先生（東邦大学 医学部医学科 社会医学講座 医療政策・経営科学分野 教授）から、前半、後半それぞれ優秀賞が発表されました。



前半優秀賞

排泄に起因する転倒転落の改善

いわき湯本病院 鈴木 智美（看護師）

チーム名：転倒を防ぎ隊

排泄に起因するレベル3以上の転倒転落インシデントが増加していた。速やかなナースコール対応を徹底し、トイレ誘導が必要な患者にはピクトグラム表示を活用し、誘導や動作援助方法を明確化した。さらに、夜間の覚醒を減らすため、就寝前にトイレ誘導を行い、排泄タイミングを把握するなどの対策を試みた。

後半優秀賞

舟渡おとしより相談センターにおける書類仕分けの作業時間短縮

ケアポート板橋 舟渡おとしより相談センター 草野 多恵（保健師）

チーム名：必殺！仕分け人！！

給付管理の時期に大量の書類が届くことで生じる仕分け作業の負担を軽減するため、改善を試みた。各職員がストップウォッチを用いて各工程の作業時間を計測し、時間を把握。担当者名の修正や事業所別利用者リストの作成、仕分け場の設置を行った。さらに、回覧用フォルダの作成により印刷物を削減し、サービスごとのフォルダ作成とプレビューの表示設定によってファイル確認時間の削減を図った。

後半優秀賞

緊急入院における入院オリエンテーション時間の削減

石巻健育会病院 佐々木 千熙（社会福祉士）

チーム名：サクサクズ

緊急入院患者への手続きや説明に長時間を要していたことから、時間の効率化と統一した説明を目指した。緊急入院時のオリエンテーション動画を作成し、部署ごとの説明順序を手順化した。説明の重複を防ぐため、一覧をラインワークスで共有した。制作した動画と手順に基づき勉強会を実施し、待ち時間を減少させた。

審査結果発表の後、審査委員長を務めた長谷川先生から、全体の講評をいただきました。



昨年、一昨年は「経費削減」や「幸せホルモン」という特定のテーマを設定していましたが、今回は自由にテーマを選んでもらいました。そのため、テーマ選定に難しさを感じた方もいたのではないのでしょうか。皆さんそれぞれ多岐にわたる活動をされており、大変興味深く拝聴いたしました。

TQM活動を進める上で重要だと考えられるポイントは二つあります。一つは、その活動がオーソドックスなTQMの手法に則っているかという点です。

そしてもう一つは、その取り組みが業務の中にどのように展開し、どのような波及効果を生むか、という点です。

これら二つの視点から皆さんのTQM活動を総合的に評価しています。チームのため、そして健育会グループとしてより良い医療を提供するために、どのような貢献ができるか、といった部分が非常に大切になります。

例えば、コスト削減だけでなく、満足度の向上やミスの減少といった効果があれば、その活動はより価値のあるものとなります。そのノウハウが他の病院でも応用可能であるかどうかも大きなポイントです。

皆さんは様々な課題を掲げ、目標を設定していました。目標設定には、いくつか重要なポイントがあります。

まず、目標は目に見えるものであることが求められます。そして、その目標を行動という形にできている、ということも重要です。

単に「自信がある」「品質が良い」といった曖昧な表現は目標設定とは言えません。例えば、「各職種の専門性を活かした在宅復帰支援をめざして～LSねりまととしてのチームアプローチの振り返りと体制見直し～」を例に挙げますと、「在宅支援の知識について自信がある」というような表現では不十分です。「在宅支援サービスの開始が遅れる」という課題を目的に設定していれば、その問題を解決するための行動が生まれ、問題がいつ解消されたかが測定できるようになります。

行動に移せるか、そして測定できるかという点が非常に大切です。

また、課題の範囲設定も重要です。「人材育成 BLS実践研修」ではBLSの実践を促す取り組みを行っていましたが、BLS研修はケアに関わる全ての職員が受けるべきごく当たり前の内容です。このような課題を設定するのではなく、健育会グループのスタッフとして、さらに意識を高く持ち、もう一歩先の目標を設定することが望ましいと思います。

「しおさい長期ご利用者における水分摂取量の増加～活力ある生活を送る為のプロジェクト～」は、わずか3人を対象としており、TQM活動としてはインパクトが弱いと感じられました。施設全体の職員の水分摂取目標を設定し、問題意識を共有した上でアプローチすれば、説得力が格段に増すように感じました。

特性要因分析についても気になった点がありました。「なぜ何々ができないのか」という要因ではなく、「何々ができない」「何々が遅れる」といった具体的な特性を捉えることが重要です。要因が対策とずれている発表がいくつか見受けられました。論理的な整合性に注意をしてください。

これらのポイントを踏まえ、優秀賞に選ばれた活動について振り返ります。

前半の優秀賞である、いわき湯本病院の「排泄に起因する転倒転落の改善」は、短い発表ながら非常に示唆

に富んでいました。排泄パターンを把握し、ナースコールにすぐ対応できるよう記録を取り、予測して動くという活動は素晴らしいものです。これは排泄だけに留まらず、様々な面で活用できる業務形態の変革であり、優秀賞に値すると感じました。

後半の優秀賞を獲得した、ケアポート板橋 舟渡おとしより相談センターの「書類仕分けの作業時間短縮」は、作業時間を測定し、リストを作成して業務改善に取り組むという、オーソドックスなTQMの良い取り組みでした。仕分けプロセスを短く合理化することで、ミスの減少が見込まれた、という範囲まで繋げることができれば、さらに内容を広げることができたでしょう。

同じく後半で優秀賞を獲得した、石巻健育会病院の「緊急入院における入院オリエンテーション時間の削減」は、業務を詳細に分析し、時間を要する部分を特定していました。それぞれの業務を動画に落とし込むことで、重複説明を減らし、順番も業務内容に合わせて最適化されていました。これは患者さんの待ち時間短縮やご家族の満足度向上にも繋がる活動であり、単なる映像制作に留まらず、プロセスに則って作成されていたため、他のケースでも応用可能だと感じました。

皆さんは課題選定において非常に良い意識を持っています。今後は、今回お伝えした点を参考に、もう一歩考え方を変える意識で取り組み、活動をさらに磨き上げてほしいと思います。

その後、私から皆さんへ来年のTQM活動について、ビデオメッセージを贈りました。



抄録を拝見する限り、今年も皆さんが熱心にTQM活動に取り組んでいたということがうかがえました。

私からは、来年のTQM活動のテーマについてお話しします。

健育会グループは、過去20年間にわたり、業務改善や医療の質向上を目指しTQM活動を進めてきました。現場に根付き、改善効果を生んだ成功事例がある一方で、残念ながら途中で継続できず、根付かなかった取り組みも存在します。

次回は、これまでの活動を振り返り、TQM活動における改善が「根付いたテーマ」と「根付かなかったテーマ」に分けて分析をしてください。

改善活動が根付かなかった要因は、テーマ選定の問題や、根付かせようとする意識不足など、様々な点が考えられます。

貴重な時間をかけた活動を無駄にするようなことがないよう、強い意識を持って取り組んでください。

TQM活動に取り組む以上、「安全」「経営」「親身な対応」を結びつけた「Our Team」についてより強い意識を持ち、全職員で活動の必要性をしっかりと認識・分析するようにしてください。更なる進化を遂げたテーマに取り組む皆さんの活動に、大いに期待しています。